

平成30年度第1回
やまがた出会いサポートセンター運営委員会議事要旨

日時：平成30年5月24日（木）
13時30分～15時20分
場所：あこや会館1階ホール

議事内容

(1) 総会付議事項について

- ・平成29年度収支決算（案）・事業報告

総会付議事項については、原案のとおり総会に提案することを了承された。

(2) 平成30年度事業計画・収支予算

(3) 業務委託事業者の決定

(4) 平成30年度事業計画の具体的取組み

質問

<委員>

H30年度収支予算の負担金収入について、山形県負担金がH29年度予算額より1,184,000円減額となっている理由及び山形県負担金のみが減っている理由について。

H30年度収支予算の婚活力向上支援事業がH29年度予算額より1,200,000円減額となっているが事業実施に影響はないのか。

<事務局>

県の予算取りの関係であり、国からの交付金が受けられない事業が出たため事業を組み替えて実施することとした。

市町村負担金は、人口割を採用し算出している。山形県対市町村の割合で算出したものではない。山形県負担金、市町村負担金、その他負担金は連動していない。

H29年度まで婚活力向上支援事業は単独での委託事業だった。プログラムは男女別で4回実施していた。出会いの相談窓口事業も含めて同じ事業者が実施していた。今年度は自分力UPプログラムを見直し女性向けカフェを3回開催としている。また相談業務は、やまがた縁結びたいとの連携により実施するため予算額での業務遂行が可能と考えた。

<委員>

市町村負担金の額決定の根拠となるものはあるのか

<事務局>

H29第3回運営委員会資料に算出表を添付している。前年度に人口割を採用し算出したものを山形県市町村政連絡協議会に申請し決定通知を受けている。今年度の総会資料にも添付する。

<委員>

今年度の取組みとして、マッチング率を維持する会員募集活動の強化とあり、会員の男女比の不均衡解消のため女性会員を増やすべく、女性向け婚活カフェの開催などがあげられているので期待したい。

やまがた縁結びたいと連携してサポート機能強化とある。経験豊富な縁結びたいの方々のサポートにより、出会いからゴール地点まで導いて行ってほしい。

<事務局>

H29年度実績から、山形市等都市部の状況では20代30代の女性会員数の伸びが見られた。タウン誌掲載や女性が行きやすい場所等、女性向けのPR強化の成果が出たのではないかと思う。今年度も他の地域も含めてPRを実施したい。縁結びたいとの連携は重要だと考えている。

<委員>

収支予算の資料はこの他に関連する詳細なものはあるのか。委託費の内容がわかるものがあるのか。

町単独での婚活事業の認知度を上げるため苦勞している。センターに会員登録した方に、どうやってセンターを知り得たかという情報はあるのか。

<事務局>

センターに費目別に整理したものがある。先日H29年度収支決算について監事監査を受けた。これまでは収支決算書のみ提示していたため、今後の提示する内容等を含めて情報提供の仕方を検討する。

センターでアンケートを実施している。情報提供し共有させていただく。

意見等

<委員>

H28.11月からやまがた縁結びたいによる相談会を月1回程度実施している。5組程度相談会に絡んだ方から成婚報告をもらっている。

女性向け婚活カフェ開催においては、今どきの若い世代の結婚観などの情報収集をしてほしい。

Webでの仮登録時にもアンケート形式的なもので情報収集してはどうか。会員が1,500名近くもいるという事はそれだけ基礎データが潜んでいると考えられる。情報をデータ化、分析して事業展開すべきである。

<事務局>

婚活カフェ、その他実施する機会があればアンケートを実施し、結果を情報提供し共有させていただく。

<委員>

H21年仲人制度、H26年結婚サポートセンター設置。H26年から民間委託事業として企業を巻き込んだ婚活支援に取り組んでいるが、マンネリ化してきている。若い世代の仲人への登録が増えている。

企画提案審査会の最優秀事業者が優れていた点を教えてほしい。

<事務局>

相談サポート機能の充実等である。これまで閉所としていた祝日を開所、ワンストップ型相談窓口スキルを持ったスタッフを配置するなどサポート体制が充実していた。また、PRについて他事業者よりも多くの媒体を使うこと等である。

<委員>

企業誘致に携わっていた経緯があるため、企業間連携の点で協力できればと思う。

会員交流会参加者の男女別人数は。日帰りツアーとのことだが、宿泊やアルコールを伴った方がより出会いに繋がるのではないか。

<事務局>

男性10名、女性5名（内1名欠席）。女性会員に実施したアンケートを基に計画した。アルコール抜きイベントを希望する女性が多かった。今年度もアンケートを実施し意見を聞きながら計画していく。

<委員>

H29年度まで3年間日帰り婚活バスツアーを実施している。イベント後について、カップル成立など追えていない。むらやま広域婚活事業実行委員会、イベント後の状況についてどうやって把握していくのかという事が難しい課題だとの意見があった。

どのようにしてセンターを知り得たのかという点を把握することが大事であり、会員増加に繋がるのではないか。

会員であることのメリットがあれば、更新者や会員増加に繋がるのではないか。

<委員>

町単独での婚活イベント開催が難しい。H29年度から婚活イベント実施団体への補助金を上限100,000円とし予算化している。H29年度は1団体より補助金申請があった。婚活支援員によるお見合いから成婚し町居住の場合、支援員へ100,000円支給している。婚活支援員が8名いるが高齢化している。若い世代の考え方がわからない、意見が欲しいとの声があるため、女性向け婚活カフェでの意見など情報提供してほしい。

<委員>

地域バランスを考慮したサービス提供による出張登録会の開催継続はありがたい。

会員登録料の半額助成を実施しているが利用者が伸びない。

最上広域婚活事業実行委員会の事業では成婚に結びついている。

地域おこし協力隊が婚活支援として着任し、少数での出会いの場を提供するなど取り組んでいる。今年度での任期満了後は、起業しさらに婚活支援を続けたいとのことである。

<委員>

H28年度からライフデザイナーとして仲人を制度化して男女各4名に委嘱している。女性の登録者が0名でマッチングに至っていない。

H27年度から町内の若者団体、事業所から委員を選出して若者の出会いの場づくり事業実行委員会を組織しイベントを実施しているが参加者募集に苦勞している。H29年度のイベントの参加者は男女各16名だった。カップル成立は把握していない。婚活を前面に出さないイベントとして実施した。町ではイベントに対して補助を行っている。

<委員>

イベント等は実施していない（地区組織単位ではイベントを実施しているところもある）。センターの周知に協力している。

H29.3月に若年者向け参加者50名程度のライフプランセミナーを開催した。センターより、セミナー開催前の時間に事業説明等をしてもらった。今年度も機会があればお願いしたい。

H29年度のお友達割登録者（47名）が新規登録者全体（509名）の1割程度であり多いと思われる。利用実績があるのだから今年度は更なるPRを実施すべきである。